

## 海外事務所 だより

# N S W州議会議員 選挙について

シドニー事務所所長補佐 堀切 孝良 (三重県派遣)

シドニー事務所

### はじめに

シドニーを州都とするニュー・サウス・ウエールズ(以下、NSW)州議会の選挙が二〇〇七年三月二四日に実施されました。NSW州議会の選挙は、四年ごとに三月第四土曜日に実施されており、今年後半に予定されている連邦政府議会議員選挙を占う意味でも注目されました。

モリス・イエマ州首相(労働党)にとっては、二〇〇五年八月に二年余り政権の座にあったボブ・カー州首相(労働党)の引退に伴い、首相に就任して以来、初めての選挙となりました。

前回、二〇〇三年の選挙でボブ・カー率いる労働党が圧勝したおかげで、今回の選挙で仮に下院の議席を八議席失ったとしても、過半数を維持できるといった有利な状況に

ありましたが、クロスシテイ・トンネルの経営破たんや、州営の公共交通機関に対する苦情、慢性的な水不足等、多くの問題を州政府は抱えており、与野党がどのような公約を示すのか興味がありました。

そこでNSW州議会の選挙制度について概説し、次に、今回の選挙結果について報告します。

### 選挙制度

#### (1) 議会制度

二院制議会です。

#### (2) 選挙権

一八歳以上のオーストラリア国民で、州議會議員選挙の

選挙人名簿に登録された住民が対象。選挙人名簿への登録は義務付けられています。

	上院	下院
任期	8年 (4年ごとに半数が改選)	4年
定員	42人	93人

名簿更新のため、選挙委員会は登録記録が空白になっている住所宛へ登録用紙を随時送付しています。

#### (3) 被選挙権

議員に立候補するための被選挙人資格は、オーストラリア国民であることおよび選挙区の有権者であることです。

#### (4) 投票義務

義務投票制が採用されており、投票しなかった有権者には罰金の納付書が送付され、  
① 二五オーストラリアドルの罰金を払う  
② 投票しなかった理由を記入し、返送する  
③ 裁判で争う  
④ 投票したのであれば、投票した場所を記入し返送する

のいずれかを選択します。罰金を支払わなかった場合は、最高五五オーストラリアドルの罰金に加えて裁判費用が科せられることがあります。

## ⑤ 投票方法

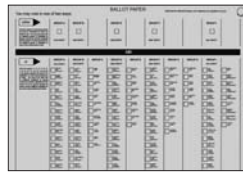
### ・上院

以下の二種類の方法のいずれかを選択します。

ア) 投票したい候補者グループ（いわゆる政党）の上に示された四角の枠内に数字「1」を記入。さらに任意で「2」以降の番号を優先する順番に従って記入。

イ) 各候補者に与えたい優先順位に従って、候補者名の横に示された四角の枠内に数字「1」

「15」まで記入。さらに任意で二位以下の候補者にも投票できる。

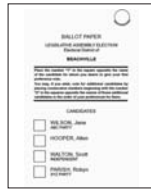


↑上院選挙用紙（サンプル）

### ・下院

最も優先して投票したい候補者名の横に示された四角の枠内に数字「1」を記入。さらに任意で「2」以降の番号を優先する順番に従って記入することができます。

なお投票方法については日本語のほか、計二四カ国語の小冊子が用意されています。



↑下院選挙用紙（サンプル）

## ⑥ 開票方法

### ・上院

上院議員選挙の開票、集計は下院の場合よりかなり複雑であり、正式に当落が決す

（出典：NSW州選挙管理委員会ホームページ）

るまで数週間かかることもあります。今回の選挙では、選挙日から一九日後の四月二日に最終的な結果が選挙管理委員会のホームページに掲載されました。

候補者が当選するには、得票が当選に必要な基数（quota）に達する必要があります。

基数 = 【総有効投票数 ÷（議席数 - 1）】 + 1

今回の選挙では総有効投票数が三八二万二四五票であり、基数は一七万三三三九票となります。基数を超えた得票については余剰得票となり、その票に投票者が記入した優先順位に従って比例配分され、他の候補に移譲され、すべての改選議席が埋まるまで繰り返されます。

### ・下院

候補者が当選するには、

① 優先順位一位を数える初期集計で総有効投票数の過半数に達した場合

② 初期集計で達しない場合は、優先順位一位の得票が最も少ない立候補者の得票は回収され、それらの得票に優先順位二位と記入された候補に配分される。こうした配分が、過半数に達する候補者が現れるまで繰り返される

（出典：NSW州選挙管理委員会ホームページ）

## 主な政党の特色

### 〈労働党〉

### NSW州党首：モーリス・イエマ

労働党は、労働者階級と労働組合運動の利益を議会において代表することを目的に一八九一年に結成されたオーストラリアで最も長い歴史を持つ政党です。労働者階級を伝統的な支持基盤としていますが、ホワイトカラー層や知識層にも支持層を広げており、また非英語圏からの移民の間で高い支持を得ています。

### 〈自由党〉

NSW州党首：ピーター・デブナム（選挙当時、選挙後辞任）、バリー・オフアレル（二〇〇七年五月現在）

一九四四年結成。中小企業や中産階級を主な支持基盤とし、経済政策面では、自由市場経済に重きを置くグループとそれ以外のグループが、社会政策面では、保守的なグループとリベラルなグループが混在しています。

### 〈国民党〉

NSW州党首：アンドリュー・ストーナー

一九一〇年代後半に結成された国民党は、七〇年代半ばまで地方党と名乗っていたことから分かるように、オーストラリアの農村部に基盤をおく政党であり、自由党と連合関係にあります。

（出典：日本商工会議所発行 オーストラリア概要2006）

## 選挙公約

与党労働党は、学校、病院、水不足の間

題等、生活に密着したサービスの向上に焦点を当てているのに対し、連立野党は公務員削減や公営企業の売却を進め、その資金を観光産業に投資するなどNSW州の経済の活性化に焦点を当てた公約を発表しました。

与野党の主な公約は以下のとおりです。

〈労働党〉

・慢性的な水不足を解決するため、淡水化プラント設置計画および再生水利用計画の実施

・公立学校施設の改善

・警察官の増員

・公立病院の看護師の増員

〈連立野党（自由党・国民党）〉

・干ばつ対策、水資源確保のため新たなダム  
の建設、下水道整備および再生水の利用

・土地税（州税）の減税

・公務員削減（三〇万人から二八万人に減）

・ゴミ処理部門や州営宝くじ販売企業の売却

選挙結果

上院では与党である労働党が今回の改選で九議席を獲得し、非改選議席と合わせて計一九議席となり、改選前より一議席増やしたものの、過半数を占めるには至りませんでした。連立野党（自由党・国民党連合）は八議席を獲得し、計一五議席となりました。緑の党、シューターズ党は共に一議席増やし、代わりに民主党が上院での議席をすべて失いました。

上院

政党名		今回獲得議席数	非改選議席数	合計議席数(増減)
労働党	Labor	9	10	19 (+1)
自由党・国民党連合	Liberal/Nationals	8	7	15 (+2)
緑の党	Greens	2	2	4 (+1)
クリスチアン党	Christian Democratic	1	1	2 (±0)
シューターズ党	The Shooters	1	1	2 (+1)
民主党	Australian Democrats	0	0	0 (-1)
その他		0	0	0 (-4)
合計		21	21	42

下院では、労働党が前回より得票率を低下させ、議席を三議席減らしたものの、九三議席中五二議席の過半数を確保し、労働党政権は四期目に突入することになりました。連立野党は、前評判が悪かったにもかかわらず、新たに四議席（自由党三議席、国民党一議席）を奪取したものの、政権交代には至りませんでした。

終わりに

自由党・国民党連合のピーター・デブナム代表は、敗北を認めたものの、不況に苦しめられているNSW州の「すべての問題を解決する最後のチャンス」を、有権者が労働党

下院

政党名		議席数(増減)	得票率
労働党	Labor	52 (-3)	39.0
自由党	Liberal	22 (+3)	27.0
国民党	National	13 (+1)	10.1
緑の党	Greens	0 (±0)	8.9
クリスチアン党	Christian Democratic	0 (±0)	2.4
その他	Others	6 (-1)	12.6
合計		93	

(出典：ABC ホームページ)

に与えた」と指摘しています。彼の指摘のとおり、与党労働党は勝利を収めたものの、得票率は前回より低下しており、各種行政サービス（鉄道、道路、医療、保健、教育、水不足問題等）に対する住民の不満を解消すべく、課せられた課題は大きいものです。

モリス・イェマ首相は選挙後のインタビューで「この結果を謙虚に受け止めたい。住民を失望させないよう、早速月曜から仕事に戻り、住民が望むサービスを提供したい」と決意を表明しました。

今回の選挙で発表された公約が確実に実施されるのかを含め、今後の州政府の政策運営に注目していきたいと思えます。

(参考：ABC ホームページ)

海外生活  
だより

シドニー事務所

「食」から見る  
オーストラリア

シドニー事務所所長補佐  
川埜 満寿夫（北海道ニセコ町派遣）

オーストラリアと「食」

皆さんは、オーストラリアの食べ物と聞いて何を思い浮かべるでしょうか。きっと、ほとんどの人が「オージービーフ」を最初に連想し、次にBBQ（バーベキュー）、中にはカンガルーやエミューといった、この国のイメージキャラクターといえる動物の料理を想像する人もいることでしょう。正直なところ、私もそのうちの一人でした。

しかし、実際のオーストラリアの「食」は、多種多様という言葉がぴったり当てあまるほど、変化に富み、しかも現在進行形で発展し続けているように思います。

もともと、イギリス料理が土台のオーストラリアの「食」は、次に述べるように、この国固有の背景により、変化していったと

言われています。

● 食材の宝庫

オーストラリア本土は、南北に三七〇〇km、東西に四〇〇〇kmにも及び、世界で六番目という広大な面積を有します。その約二〇％は砂漠ですが、日本の約二〇倍もの国土には、砂漠性から熱帯性、温帯性気候と多様な風土が広がっています。そのため、果実から穀物までさまざまな農産物を作ることができます。近年では、ブドウに最適な気候において生産されているオーストラリアワインが、日本でも人気になっていますね。もちろん、オージービーフに代表されるように、古くから牛や羊などの畜産業も盛んです。

また、忘れてはならないのが、オーストラリアが日本と同様に、周囲を海に囲まれている世界最大の島国だということ。で

すから、海産物も豊富で、商業用に取り引ききされている魚種の数では世界第一位と言われるほどです。

まさに、オーストラリアは食材の宝庫と言えるのではないのでしょうか。

● 多民族・多文化国家

オーストラリアの人々は、アボリジニと呼ばれる先住民を除き、過去二世紀の間にこの国に移住してきた人々です。当初、移民の大部分はイギリスやアイルランドからでしたが、特に一九七二年の白豪主義政策の撤廃以降は、アジア諸国をはじめ、世界中から人々が集まるようになりました。そして、彼らは母国の食文化をオーストラリアに持ち込んだのです。

ある調査によると、オーストラリア国外で生まれたオーストラリア人は五人に一人、家庭で英語以外の言葉を話す国民は六人に一人に達し、二〇〇以上の言語が国内で使われているとも言われています。

シドニーにも、チャイナタウンと呼ばれる地域があつたり、イタリア系移民やベトナム系移民の多い地区があつたりします。また、街中で日本語を聞く機会も多く、日常生活からは統計の数値以上に、オーストラリアが多民族・多文化国家であることを実感しています。

現在の「食」文化

このように、この国が食材の宝庫であり、

移民によりさまざまな国の料理方法がもたらされ、母国同様の食材で母国料理が作られていったことから、現在のオーストラリアの「食」は、多種多様でそして美味です。

職場のオーストラリア人スタッフに聞いても、ここ二〇年で、家庭でも料理の種類が増え、味自体も格段においしくなったと言います。

そのオーストラリアの「食」の顕著な例をフードコート（飲食店のブースが集まる食事のための共有スペースのこと）で見ることができます。フードコートには、ハンバーガーなど西洋料理の店のほか、中国、韓国、タイ、インドなど各国料理の店が（むしろメインといえるほど）並んでいます。もちろん日本料理店も。私がよく行くフードコートでも、たくさんさんのビジネスマンたちがフードコート内やあるいはテイクアウト（いわゆるドコト内やあるいはテイクアウト（いわゆるテイクアウトのオーストラリアでの呼び方）をして、各国料理でランチを楽しんでいます。彼らの箸の使い方を見ても、いかに日ごろからアジアの料理に慣れ親しんでいるのがよく分かります。

また、テイクアウトのよう、食事を屋外で軽くとするスタイルも、オーストラリア食文化の最近の傾向と



↑ランチタイムににぎわうフードコート

なっています。

さらに、オーストラリア特有のものにBYOというものがありません。BYOとは、bring your ownの略で、レストランへのお酒の持ち込みが可能であることを示しています。私も個人的に気に入っている仕組みなのですが、BYOでは比較的安く、自分の好きなお酒を楽しむことができます。食べ物も飲み物も、好きなものを楽しむのがオーストラリア流のようです。

## 生魚もOK？

魚市場として、東京の築地市場が世界第一位の規模だということは、皆さんご存知かもしれませんが、では、世界第二位はどこでしょうか。正解は、ここシドニーのフィッシュマーケットです。このフィッシュマーケットが、実は最近のシドニーの主要な観光スポットの一つにもなっています。

ここでは、一〇〇種類以上の魚介類が扱われ、毎日、せりが行われています。誰でも市場内の魚屋で、氷の上に並べられた魚介類を買うことができます。もちろん、レストランもあり、「sushi」や「sashimi」のメニューから、生の魚も食べることができます。これまでオーストラリアでは、生魚を食べる文化があまり無かったことを考えると、その抵抗が随分と少なくなっているようです。これはまさに、日本の食文化の影響といっても過言ではないでしょう。

オーストラ

リアは、日本同様に海産資源が豊富な国です。これからさらに認知度が高まり、鮮度を保つ環境が整えば、本場同様のすしや刺身が食べられる日が、近いうちに訪れることでしょう。



↑フィッシュマーケットに並ぶ魚

## 終わりに

今年の四月から始まった私の海外生活ですが、こちらで初めて食べる料理、そして知る文化は数知れません。

「食」から見ても、オーストラリアでは、異文化としてではなく、多文化としての共生がうまく進んでいることを実感します。おかげで、私でも毎日の生活を快適に過ごせています。

観光面でみれば、固有で独特なイメージが強いオーストラリアですが、一歩踏み込めば、食以外にもさまざまな文化が混在している国でもあります。そして、とても興味深く、多くの刺激を受けることができるのだと感じています。

これからも、いろいろな文化との出会いを楽しみに、身近な日常生活から多民族・多文化の国オーストラリアを発見していきたいと思っています。